らアプローチした本書も、かかる動向の中に位置づけられるが、本書第一の特質は、やはり衰亡に向かう洋の東西における帝国を比較している点にあろう。一方で、文人貴族への同化によって支配者層の激変が生じなかった漢帝国の行く末、他方で、文人、武人の分化、そして文明の担い手であった前者への民衆の不支持により衰弱するローマ帝国の末路が明瞭に対比されているのである。かかるコントラストは、ローマ帝国の衰亡という史上大きな問題に対して、新たな光を投げかけるとともに、幅広い人々を同問題に巻き込む可能性を秘めているのではなかろうか。

（B6判　二二二頁　二〇一五年五月　講談社　税別一五五〇円）

（増永理考　京都大学大学院文学研究科博士後期課程）

会　告

去る六月二十五日に開催されました史学研究会理事会・評議員会におきまして左記の事項が可決、承認されましたのでご報告申し上げます。

記

一、平成二十六年度決算報告
一、平成二十七年度予算案
一、役員の交替

1、退任

常務理事　永原陽子（↓理事）
　　吉川真司（↓理事）
理　　事　吉井秀夫（↓常務理事）
　　上原真人、小林致広
監　　事　早島大祐（↓評議員）
評　議　員　中砂明徳（↓理事）
　　金澤周作（↓常務理事）
　　笠谷和比古、平　雅行
編集委員　中川未来、冨井　真
庶務委員　井出健人、小川　伸
　　増永菜生、宮﨑涼子
　　山本　亮

2、新任

常務理事　吉井秀夫（↑理事）
　　金澤周作（↑評議員）
理　　事　永原陽子（↑常務理事）
　　吉川真司（↑常務理事）
　　中砂明徳（↑評議員）
　　水野一晴
監　　事　山澄　亨
評　議　員　早島大祐（↑監事）
　　山村亜希、黒田　卓
　　塚本　明
編集委員　谷　徹也、内記　理
庶務委員　小泉翔太、小堀慎悟
　　仲田詩織、森下　達
　　山内桜子

受贈誌

（二〇一五年五月一五日～二〇一五年七月二日）

民俗学研究所紀要（成城大学民俗学研究所）三九
史学研究集録（國學院大學日本史学専攻大学院会）四〇
信濃（信濃史学会）六七―五